

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成24年11月8日(木) 4校時

学 級 3年1組(男子21名 女子15名 計36名)

授業者 教諭 加藤 公保

- 1 単元名 いにしえの心と語らう 夏草 「おくのほそ道」から
(国語Ⅲ 光村図書)

2 単元について

(1) 教材について

本教材「おくのほそ道」は、松尾芭蕉が江戸時代に著した紀行文である。本時で扱う「おくのほそ道」の冒頭部には、芭蕉の人生観が凝縮されている。特に「死を覚悟してまで旅に出たい」という芭蕉の強い思いとともに芭蕉のものの見方・考え方について補助資料などを用いながら芭蕉の思いに寄り添い、芭蕉の生き方に対して生徒が自分の考えを持つこともできる教材でもある。

古典の学習においては、一年生で「いにしえの心にふれる」として「竹取物語」「故事成語」などで古典への興味を持たせ、二年生では「いにしえの心を訪ねる」として「平家物語」「徒然草」などで、古人のものの見方や考え方についても触れる。そして、三年生では、「いにしえの心と語らう」として、「古今和歌集 仮名序」「君待つと 万葉・古今・新古今」で和歌に込められた古人の思いやものの見方が現代にも通じるものがあることを読み取らせる。

「おくのほそ道」では、芭蕉の思いを想像し芭蕉の生き方に対する自分の考えを持たせていきたい。

(2) 生徒について

基本的な学習習慣が確立しておらず、内容や時間帯・疲労度によって集中できない生徒がいる。その反面意欲を持って発言する生徒が学習をリードしたり全体的にわからないことをわかろうとしたりする意欲を持ち、学習に取り組む面も随所に見られる。

ペア学習やグループ学習においては、他者と関わりきれない生徒も数人いるが、全体的に見ると互いを尊重し合い自由に話し合える雰囲気がある。

古典については、四月から「論語」などの漢文・「枕草子」などの古文や俳句・和歌などの韻文を継続して学習してきている。したがって、学習アンケートをとると「もっと古典を勉強したい」「古典がわかるようになり興味が出てきた」というような回答が見られ、古典に対して興味を持ち始めている生徒が増えてきている。

(3) 指導について

古典に慣れ親しませるため、1学期から日常的に古典の音読・暗唱・鑑賞を行ってきた。本単元の指導にあたっては繰り返し音読することを大切にし、「おくのほそ道」の漢語的表現や対句表現などの持つリズムの持つ美しさを感じ取らせていきたい。

また、古典に抵抗を持っている生徒にも興味を持てるよう、資料集や写真などの視覚に訴える資料を生かし学習を進めていきたい。

さらに、読み取ったことをもとに自分の考えを書かせる際には、三学年になって学習した次の二点を生かし文章を読み取らせたり書かせたりさせたい。

① 「主張」「事実」「理由」を意識した文章を書くこと。

② A読み取ったことをもとに自分の考えを書く。→Bペア(グループ)になって考えを発表しあい学びあう。→C全体で発表しあい学びあう。

特に、①については、思考の型(論証の型)として説明的文章で学習した「事実」「主張」「理由づけ」という論理モデルを生かしていきたい。その論理モデルにより整理した自分の考えを2年生で学習した手紙という形式で書くことにより、その時々芭蕉の思いを生徒自身に実感させたいと考える。また、「②A読み取ったことをもとに自分の考えを書く。」学習では、机間指導の中で「意図的アナウンス」を入れることで生徒の興味・関心・意欲を高めながら生徒を支援する指導をめざしたい。

3 単元の指導・評価計画（3時間）

(1) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「おくのほそ道」や便覧などの資料を読み、様々な見方で読み味わって松尾芭蕉のものの見方や考え方について自分の意見を持つようとしている。	「おくのほそ道」や便覧などの資料を読んで、松尾芭蕉のものの見方や考え方を整理し、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持っている。(1)エ	「おくのほそ道」の書かれた歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しんでいる。 (1)ア(ア)

(2) 時間ごとの指導・評価計画

時	学習内容	学習目標	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 「おくのほそ道」や松尾芭蕉についての基礎知識を持つ。 朗読を繰り返し、芭蕉独特の文体に慣れ親しむ。 現代語訳や脚注を参考にし、内容をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品と作者について基礎知識を持ち、「1」の部分に描かれた情景や心情を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おくのほそ道」や松尾芭蕉について基礎知識を持ち、関心を持っている。(関心・意欲・態度) 古文の仮名遣いなどに注意しながら原文を朗読することができる。(知識・理解・技能) 現代語訳・脚注を参考にしながら、原文の内容をとらえている。(知識・理解・技能) 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 ノート
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> 「1」や便覧などの資料を読んで、文章に表れている芭蕉のものの見方や感じ方に対して自分の考えを持つ。 自分の考えを根拠に旅立つ思いを手紙という形式で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 旅に出る芭蕉の思いを本文や資料をもとにとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おくのほそ道」や便覧などの資料を読んで、松尾芭蕉のものの見方や考え方を整理し、人間、社会、自然などについて考え、旅立つ芭蕉の思いを手紙という形式で書いている。(読む) 	<ul style="list-style-type: none"> ノート 観察
3	<ul style="list-style-type: none"> 「2」の原文を朗読する。 「2」の背景となる歴史的事項を確認する。 脚注を参考にし、現代語訳する。 芭蕉が「高館」「光堂」で何を見て何を感じたかを読み取り、そのときの心情を話し合う。 平泉での心境を手紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 平泉での芭蕉の思いを本文や資料をもとにとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 古文の仮名遣いなどに注意しながら原文を朗読することができる。(知識・理解・技能) 「おくのほそ道」や便覧などの資料を読んで、松尾芭蕉のものの見方や考え方を整理し、人間、社会、自然などについて考え、平泉に対する芭蕉の思いを手紙という形式で書いている。(読む) 	<ul style="list-style-type: none"> ノート 観察

4 本時の指導

(1) 目標

旅に出る芭蕉の思いを本文や資料をもとにとらえることができる。

(2) 評価規準

説明的文章で学習した論理モデルで思考した自分の考えをもとに、旅立つ芭蕉の心境を手紙という形式で書いている。(読む能力)

(3) 本時の展開 (評価の○は本時の目標にかかわる評価、●はその他の評価)

段階	学習内容	形態	指導上の工夫及び留意点	評価 (観点、方法等)
導入 10分	1 古文の暗唱	全体		
	2 課題提示			
展開	旅立ちにあたっての思いを芭蕉になったつもりで親友宛に手紙を書いてみよう。			
	3 発問 芭蕉は、旅立ちにあたってどんな思いを抱いていたのか。			
	言語活動: 本文「1」や便覧などの資料を読んで松尾芭蕉のものの見方や考え方を整理し、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ。 活動②④			
	①各自で論理モデルに基づき自分の考えを書く。	個人	<ul style="list-style-type: none"> 「意図的アナウンス」を行うことで生徒の興味・関心を高めるとともに生徒の考えを深めたり、広げたりする。 読み取ったことを既習した論理モデルを参考に記述させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「意図的アナウンス」のキーワード 「旅への憧れ」 尊敬する「古人への憧憬」 「居ても立ってもいられない」ほど旅をしたいという思い。 旅に出てそこで死んでもかまわないというまでの「決意」。 </div>	○評価規準 説明的文章で学習した論理モデルで思考した自分の考えをもとに、自分の考えを文章中の言葉を根拠に書こうとしているか。(ノート・観察)
②小グループになりお互いに自分の考えを発表しあう。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 書く意欲を喚起できるように留意しながら意図的アナウンスを行う。 自分の考えと異なる事柄についてメモをとらせる。 それぞれの考えについての自分の考えを書き加えさせる。 聞いている生徒には、ノートに次のことを書き留めさせる。 	●それぞれの考えを発表しあい学び合いができているか。(観察)	
③全体でそれぞれの考えを発表しあう。	全体	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の考えと同じで表現が違うもの ② 自分の考えと異なる考え ③ 発表を聞いて思い浮かんだもの 	●全員が参加しているか(観察)	
30分	4 発問 もし芭蕉が旅立つ前に「親友宛に自分の心境を手紙に書いたとしたら」と仮定し手紙を書こう。	個人		
	<ul style="list-style-type: none"> 論理モデルに基づき整理した考えをもとに手紙の形式で自分の考えを5行から7行程度で表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> 論理モデルで整理した自分の考えを芭蕉の立場に立って書くということを意識させる。 教科書2年P258～259をコピーし生徒に配る。 	○評価規準 説明的文章で学習した論理モデルで思考した自分の考えをもとに、旅立つ芭蕉の心境を手紙という形式で書いている。(ノート)

<p>終 結</p>	<p>5 書いた手紙をグループで発表する。</p>	<p>グループ</p>	<p>・自分の手紙との表現の違いや物の見方や考え方の違いを視点にした感想をもたせる。 ・聞いている生徒には、ノートに次のことをメモ程度で書き留めさせる。 ① 自分の考えと同じで表現が違うもの ② 自分の考えと異なる考え ③ 発表を聞いて感じたこと</p>	
<p>10 分</p>	<p>6 聞いた手紙の内容について感想を全体で共有する。</p>	<p>全体</p>		